



中央地区社会教育情報誌「つなぐ」No.54号をお届けします。
今年の酷暑もようやく過ぎ去り、ようやく秋らしい季節を迎えました。
本54号からは、県教育庁生涯学習課の中央地区における取組と中央地区9市町村の今年度重点事項として取り組んだ事業等について紹介していきます。

生涯学習課

学校・家庭・地域連携総合推進事業「第2回地域学校協働活動推進員・地域連携担当教職員等研修会」

中央地区「読み聞かせボランティア養成講座」

□8月2日（金）
□秋田県生涯学習センター

□8月4日（日）、5日（月）
□秋田県立図書館

「みんなでつながろう～お互いの知り合いを生かすために～」というテーマのもと、各グループで各自の悩みにふれながら情報交換を行い、その後男鹿市地域おこし協力隊の佐々木里保氏と元にかほ市地域おこし協力隊の國重咲季氏からの実践紹介がありました。グループ内で実践紹介の感想を述べ合うとともに自分たちの活動にそれをどう生かしていきたいかということを確認しました。その確認には講師の先生方にも入っていただき、「なかなかうまくつながりがつけない」というような悩みに寄り添ったアドバイスや激励をしてくださいました。

参加者が、課題解決のためのつながりのつくり方や生かし方を考えると、今後の意欲を高めることができた有意義な会でした。



午前中は、3名の講師の先生方から子どもたちの年齢別に本の選定や読み聞かせについての指導がありました。参加者は、様々な読み聞かせの工夫、技術についてメモを取りながら熱心に聴いていました。

午後の演習では、一般の方と高校生が交わり合いながら、楽しそうに読み聞かせの実演に取り組んでいました。今回の養成講座を生かして、今後も読み聞かせを楽しんでほしいと思います。



秋田市

「国際教養大学との連携」

「国際教養大学との連携事業」を、同大学の学生や雄和地区の生涯学習奨励員等が参加して、全3回の日程で行いました。

1回目の6月8日（土）は、ワークショップ「朝顔の暑中見舞い絵ハガキを作ろう！」を行いました。参加者が4グループに分かれ、アイスクレイクを兼ねてパステル和（なごみ）アートによる暑中見舞いの絵ハガキを作りました。パステルアートとは、粉末にしたパステルを指で広げて絵を描くもので、参加者は送る相



手のことを思いながら制作に取り組みました。

2回目の6月15日（土）は、市の職員と生涯学習奨励員とがそれぞれの立場で生涯学習に関する話をしました。グループワークも行い、学生に生涯学習に関する現状等の情報を提供しました。

3回目の7月20日（土）は、国際教養大学で「雄和での生涯学習を通して、地域住民や大学生が楽しく、より暮らしやすい社会をつくるには？4つの学生グループが考えた生涯学習の意義や課題と新たな講座案の提案」をテーマに学生による学習報告会を行いました。

これを機会に、学生が生涯にわたる学びに取り組まれることを期待します。

由利本荘市

「芸術鑑賞教室」

市内の全小中学生を対象に、毎年芸術鑑賞教室を開催しています。

本物の舞台芸術を鑑賞してもらい、芸術を愛する心と豊かな情操を養うことを目的として長年継続している事業ですが、今年度は特別な年になりました。

中学生の部で開催されたわらび座のミュージカル『青春するべ！～由利高校民謡部ストーリー～』は、なんと由利本荘市に実在する由利高校民謡部が舞台になった物語です。さらに、メインキャスト5名のうち主役の佐々木亜美さん、小松詩乃さんの2名が本市出身なんです！ひよんな繋がりで民謡部に入部した転校生が、困難や葛藤を仲間たちと乗り越えながら民謡を好きになっていくストーリーが、青春のまっただ中にいる子どもたち、それを経験した大人たちの心に響きました。

演者の皆さんの伸びやかな演技と歌声も印象的で、地元の先輩の活躍に中学生たちも勇気づけられた様子でした。

小学校低学年の「世界の打楽器リズムコンサート」、高学年の「わんぱく寄席」、6年生対象の劇団四季による「エルコスの祈り」のいずれも好評でした。

「楽しかった！」と笑顔で帰って行く子どもたちを見ると幸せな気持ちになり、準備の大変さが報われる思いです。送迎バスや運転手の確保が年々厳しくなっていますが、子どもたちの「未来の笑顔」のため、今後も事業を続けていきたいです。



大潟村

「いつでも・どこでも・だれでも学べる場所」

大潟村公民館では、誰一人取り残さない社会の実現に向け、まずは小さな第一歩として障がいを持つ方やご家族なども参加できる（参加しやすい）、あるいは障がいを理解するための講座を開催することを令和6年度の目標としました。

7月には「ぼくの世界はモノクロ A4 サイズ」と題し、ピアサポートイエローリボンの会の仲澤美賢さんによる、障がいのある子を持つ親としての子育ての講話の他、自閉症の息子、嶺也さんが描く黒の鉛筆画にぬりえを行う講座を開催しました。皆さんの関心が高く、23名と多くの方にご参加いただきました。

8月には「初めての手話教室」と題し、一般社団法人秋田県聴力障害者協会の加藤薫事務局長を講師に迎え、初心者向けの手話教室を開催しました。県の手話通訳士派遣事業を活用し、通訳を交えて手話を学びました。夏休み中の開催であることから、参加者13名のうち7名が小学生でした。



来年の1月には「LGBTQを知るコト」と題し、LGBTQをカミングアウトされている当事者の方をお招きし、講話していただく予定です。

引き続き住民のニーズに応じながら、共生社会の実現に向けて魅力ある講座作りを目指します。